

せたな町 予防接種のしおり



予防接種は事前予約制になっております。
必ず予約をしてください！

	年	月	日交付
お子さんのお名前			
保護者のお名前			

も く じ

1. 予防接種のしおりの利用法	2
2. 予防接種の受け方	2
3. 接種前の注意	
○一般的な注意事項	3
○予防接種を受けることが出来ないお子さん	3
○予防接種を受けるときに、医師と よく相談する必要のあるお子さん	4
○その他	4
4. 予防接種を受けた後の一般的注意事項	5
5. それぞれの予防接種について	6
○BCG予防接種	6
○4種混合予防接種	7
○麻疹風疹混合予防接種	9
○インフルエンザb菌（ヒブ）予防接種	11
○小児肺炎球菌予防接種	13
○水痘（水ぼうそう）予防接種	15
○日本脳炎予防接種	16
○B型肝炎予防接種	17
6. 予防接種の接種間隔	18
7. 予防接種の通知について	19
8. その他の予防接種について	19
9. せたな町予防接種日程表	20

1. 予防接種のしおりの利用法

予防接種を受ける時は、この「予防接種のしおり」をよく読んでください。

この「予診票」を指定の接種会場に持参することで、無料で予防接種を受けられます。

予防接種の日程は、20ページをごらんください。

また、対象になる予防接種の2～3週間前に、はがきなどで個別に日程の連絡をいたします。

麻しん風しん予防接種の第2期、日本脳炎予防接種の第2期は、接種日時や会場等の案内や予診票などを対象になる際に送付いたします。

2. 予防接種の受け方

1. 予防接種の日程が近づくと、せたな町からはがきなどで予防接種の種類、日程、会場などについての案内が届きます。
2. 接種を希望される場合は必ず**予約**をしてください。
3. 予診票に必要な項目を記入してください。
4. お子さんの母子健康手帳と、記入した予診票を、予防接種会場に持参してください。

3. 接種前の注意

○一般的な注意事項

1. 受ける予定の予防接種について、このしおりやパンフレットをよく読んで、予防接種の必要性や副反応について知っておいてください。
もし分からないことがあれば、遠慮なく保健師へ質問してください。
2. お子さんの健康状態がよいときに、他の予防接種との間隔を守って受けてください。予防接種の間隔については、18ページをごらんください。
3. お子さんの体温は変わりやすいので、会場で測ります。体温計も用意してありますので会場に来てから測りましょう。
4. 予防接種を受けるときは、お子さんの体調をよく知っているご家族が連れて来ててください。

○予防接種を受けることが出来ないお子さん

1. 明らかな発熱（37.5℃以上）のあるお子さん。
2. 重い急性疾患にかかっていることが明らかなお子さん。
3. 受ける予定の予防接種によって、または接種液に含まれる成分によってアナフィラキシーショック（普通、接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応）を起したことがあるお子さん。
4. その他、予防接種を行う事が不適當な状態にあるお子さん。
上の1～3に当てはまらなくても、医師が接種を不適當と判断したときは接種できません。

○予防接種を受けるときに、医師とよく 相談する必要があるお子さん

1. 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気などで治療を受けているお子さん。
2. 未熟児で生まれたなど、継続的に診察を受けているお子さん。
3. 前に予防接種を受けたとき、2日以内に発熱、発しん、じんましんなどアレルギー症状を思わせる異常が見られたお子さん。
4. 今までにけいれんを起したことがあるお子さん。
5. 薬の投与を受けて皮膚に発疹が出来たり、体に異常をきたしたことがあるお子さん。
6. 過去に免疫状態を検査して異常を指摘されたことがあるお子さん。
7. ワクチンには抗原のほかに培養に使う卵の成分、抗生物質、安定剤などが入っていることがありますので、これらにアレルギーがあるといわれたことがあるお子さん。

○その他

- ・ 麻しん、風しん、水痘、おたふくなどのウイルス性疾患に罹患（りかん）した場合、発病後1か月以上の間隔をあけて予防接種を受けてください。
- ・ ステロイド入りの塗り薬を予防接種する場所に塗っていると、BCGは受けられません。

4. 予防接種を受けた後の一般的注意事項

1. 予防接種を受けた後30分間は、重篤な副反応（アナフィラキシーショック・呼吸困難等）が起こりやすいため、接種会場でお子さんの様子を観察しましょう。
2. 接種後、生ワクチンでは2～3週間、不活化ワクチンでは24時間は副反応に注意していきましょう。
3. 入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすらないようにしましょう。
4. 接種当日はいつもどおりの生活をしましょう。

5. それぞれの予防接種について

○ BCG予防接種・・・うすい青色の予診票

BCG予防接種について

BCGは結核の予防注射です。結核とは結核菌の空気感染によって起こる病気で、日本では年間およそ3万人の患者が発生しています。生まれたばかりのお子さんは抵抗力が弱いため、全身性の結核症になることもあります。このため、早い時期での予防接種が重要です。

①接種の受け方

接種日が近づいたら、案内が届きますので指定の会場にお越しください。

接種できる期間が短いので忘れないようお気をつけください。

②接種方法

はんこ注射です。(生ワクチン) スポイトでお子さんの上腕部に薬液を垂らして、はんこのような器具で接種します。以前行っていたツベルクリン反応(豆注射)は行いません。

③副反応

通常、接種後10日ほどで接種部位に赤いぽつぽつができ、一部にうみをもったりします。この反応は4週間くらいで最も強くなり、その後かさぶたになって3か月くらいで治り、あとが残ります。これらは普通の反応です。

しかし、結核にかかっている方は、接種後10日以内に注射の部位が赤くなったり腫れたり、化膿したりします。もし、BCG接種後1～10日以内に大きく赤く腫れたり膿が出るなどがあった場合は、速やかに保健師まで連絡をください。

稀に生じる重い副反応としては、アナフィラキシー様症状(ショック症状, じんましん, 呼吸困難など), 骨炎、骨髄炎、骨膜炎、皮膚病変等が報告されています。また、脇の下のリンパ節が腫れることもあります。通常は様子を見るだけでかまいません。かなり大きくなるなどしたときは医師に見てもらいましょう。

④接種時期

生後直後～12か月未満

(せたな町では、生後5か月～11か月児が対象となっております)

○ 4種混合予防接種 ・ ・ ・ クリーム色の予診票

4種混合予防接種について

4種混合予防接種はジフテリア、百日咳、破傷風、急性灰白髄炎（ポリオ）の予防注射です。

ジフテリアは感染しても症状が出にくい感染症ですが、発病すると高熱や嘔吐、窒息、心筋障害などを起こすこともある病気です。

百日咳（ひやくにちせき）は呼吸が出来ないほどの連続したせきが出る感染症で、肺炎などを合併する危険な病気です。

破傷風は土のなかに潜んでいて、傷から感染します。感染し、菌が増えると、全身けいれんなどを起こす病気です。

ポリオは「小児マヒ」とよばれるウイルス感染症で、最近では国内での自然感染は報告されていません。しかし、東南アジアやアフリカ諸国などでは今でも流行することがあります。ポリオに感染すると1,000～2,000人に1人にマヒ患者が発生します。

① 接種の受け方

接種日が近づいたら、案内が届きますので指定の会場にお越しください。

② 接種方法

皮下注射での予防接種です。（不活化ワクチン）
左右交互の腕に接種します。

③ 副反応

よくみられる副反応としては、注射部位の発赤、腫れ、しこりなどです。その他注射部位以外では、発熱・鼻水・咳・発疹・気分変化・下痢等があります。

まれに生じる重い副反応としては、アナフィラキシー様症状（ショック症状，じんましん，呼吸困難など），急性血小板減少性紫斑病（紫斑，鼻出血，口腔粘膜の出血等），脳炎及びけいれん等が報告されています。重い副反応がなくても、機嫌が悪くなったり、腫れが目立つときなどは医師に相談してください。

④ 接種時期：生後 3 か月～90 か月

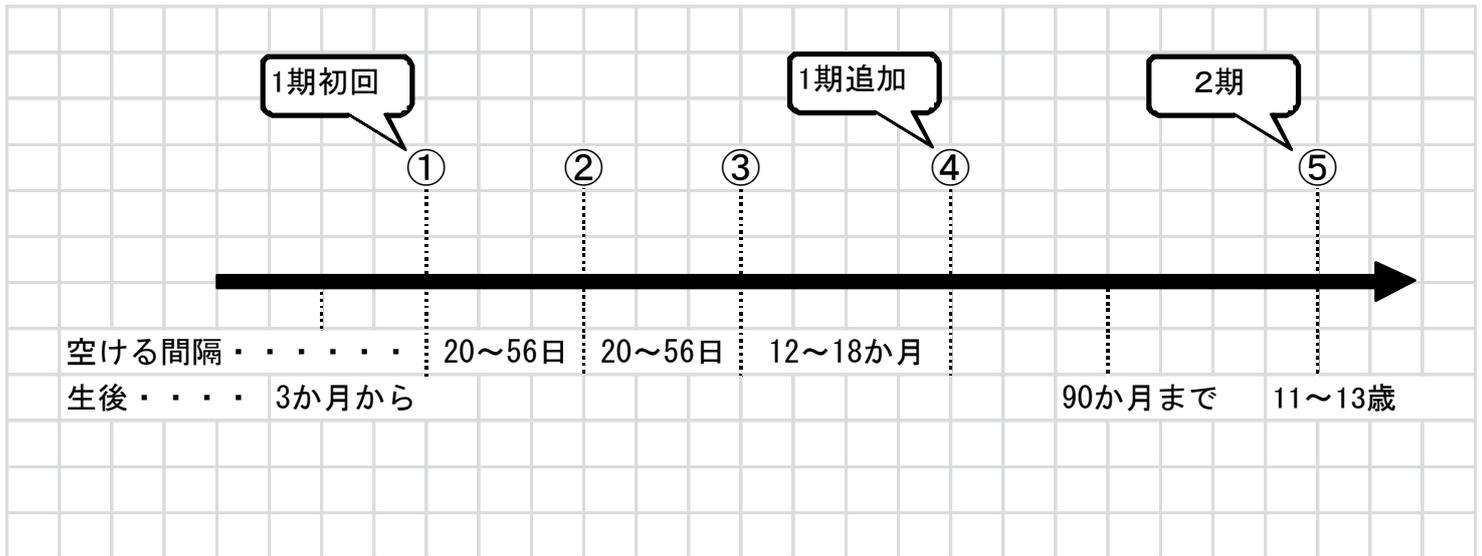
1 期初回：20 日以上（標準は 20～56 日）の間隔で
3 回接種します。※1

1 期追加：1 期初回 3 回目が終わってから 6 か月以上

（標準は初回終了後 12 か月～18 か月）の間に 1 回接種します。
（町では初回 3 回目終了後、おおむね 12 か月後以上で通知しています）

2 期：11 歳～13 歳未満（小学校 6 年生）に 2 種混合予防接種
（DT）を 1 回接種します。

※1…発熱等で接種できなかった場合を除く。



○ 麻しん風しん混合予防接種 ・ ・ 薄茶色の予診票

麻しん風しん混合予防接種について

麻しんは麻しんウイルスの空気感染によって起こる病気です。感染力が強いため、予防接種を受けていないとほぼ必ず感染します。

症状は発熱、せき、鼻水、目やに、発しんが主で、最初3～4日間は38℃前後の熱で、おさまりかけたかと思うと39～40℃の高熱と発しんがでます。高熱は3～4日で下がり、次第に発しんもなくなります。

麻しんの合併症として、気管支炎（7～9%）、肺炎（1～6%）、中耳炎（7～9%）、脳炎（0.2%）があります。

麻しんにかかった人は数千人に一人の割合で死亡し、日本では現在でも年間数十人の子どもが麻しんで命を落としています。

風しんは風しんウイルスの飛沫感染（くしゃみやせきで感染）によって起こる病気です。潜伏期間は2、3週間で、発しんや発熱、目の充血などが症状です。発しんも3日くらいでおさまるので、「三日はしか」とも呼ばれます。

風しんの合併症として、関節痛、血小板減少性紫斑病（出血しやすくなる）、脳炎などがあります。

大人になってから感染すると重症化しやすくなります。また妊婦が妊娠早期に感染すると、先天性風しん症候群と呼ばれる心臓病や白内障、視力障害等を持った子が生まれる可能性が高くなります。

① 接種の受け方

接種日が近づいたら、案内が届きますので指定の会場にお越しください。（第2期の案内の時は改めて予診票などを送付します。）

② 接種方法

皮下注射での予防接種です。（生ワクチン）

③副反応

麻しん風しんワクチンは生ワクチンなので、接種後ウイルスが体内で増えます。このため、接種後5～14日に発熱、発しん、リンパ節が腫れることがあります。発熱は2割、発しんは1割程度に見られます。稀に生じる重い副反応としては、アナフィラキシー様症状（ショック症状，じんましん，呼吸困難など），急性血小板減少性紫斑病（紫斑，鼻出血，口腔粘膜の出血等），脳炎及びけいれん等が報告されています。

④接種にあたっての注意事項

ガンマグロブリン注射を受けたことがある人は、3か月以上過ぎてから、川崎病などでガンマグロブリン大量療法を受けたことがある人は、6か月以上過ぎてから予防接種を受けてください。

⑤接種時期

1期：生後12か月～24か月未満に1回。

2期：5歳～7歳未満で、小学校就学の始期に達する日の1年前の日から、当該始期に達する日の前日までの間（小学校就学前の1年間）に1回

	出生時	6ヶ月	12ヶ月	18ヶ月	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳
麻しん風しん ワクチン			第1期	1回			第2期	1回			

インフルエンザb菌（ヒブ）予防接種について

ヒブとは、「インフルエンザb菌」という細菌の略称ですが、冬に流行する「インフルエンザ」とは全く別のものになります。多くの細菌やウイルスとは異なり、ヒブは乳幼児に感染しても免疫ができず繰り返し感染する危険性があります。

このヒブが全身に広がると、肺炎や髄膜炎など様々な病気を引き起こします。その中でも最も重篤なのが細菌性髄膜炎です。

※細菌性髄膜炎とは…

脳や脊髄を包んでいる膜を「髄膜」といい。そこが細菌やウイルスに感染して炎症することでおきる病気が「髄膜炎」です。ヒブや肺炎球菌といった細菌が原因となる髄膜炎はウイルス性のものより発生頻度は低いですが、重症化しやすい特徴があります。日本の年間患者数は600人程度報告されており、中でも生後3か月～2歳までが免疫が低いためかかりやすいといわれています。

① 接種の受け方

接種日が近づいたら案内が届きますので指定の会場にお越しください。

② 接種方法

皮下注射での予防接種です。（不活化ワクチン）左右交互の腕に接種していきます。

③ 副反応

よくみられる副反応としては、注射接種部位の発赤、腫れ、しこり、痛みや発熱などです。重い副反応としては、非常にまれですがショック、アナフィラキシー様症状、けいれん、血小板減少性紫斑病が報告されています。

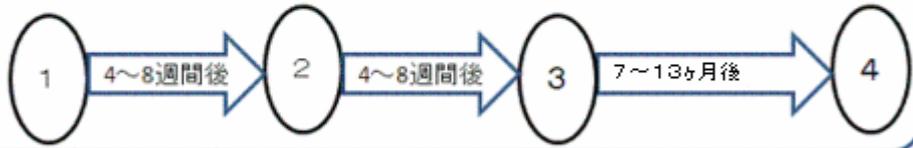
⑤ 接種時期：生後2か月～5歳未満

望ましい接種スケジュールは、2か月～7か月になるまで接種を開始し、4～8週間隔で3回、追加免疫として、3回目接種から7～13か月後に1回の計4回になります。ヒブの接種スケジュールは、初回接種をはじめた時期により異なりますので、ご確認ください。

ヒブ(インフルエンザb型)ワクチン

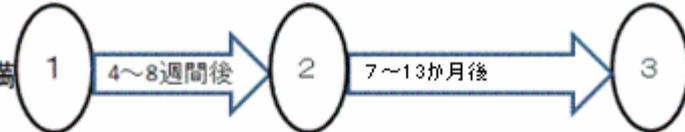
標準

生後
2~7か月齢未満
で接種開始



標準でできなかった場合

生後
7~12か月齢未満
で接種開始



1歳~5歳未満



○小児肺炎球菌予防接種 青色の予診票

小児肺炎球菌予防接種について

肺炎球菌は子どもの多くが、鼻の奥に保菌していて、ときに細菌性髄膜炎、菌血症、肺炎、副鼻腔炎、中耳炎といった病気をおこします。肺炎球菌性髄膜炎は、予後が悪く、初期の症状は風邪と区別がつきません。肺炎球菌にかかりやすいのは3か月から5歳位までで、細菌性髄膜炎の患者は5歳未満の子ども10万人に対して年間200人位です。

①接種のうけかた

接種日が近づいたら案内が届きますので、指定の会場まで来てください。

②接種方法

皮下注射での予防接種です。(不活化ワクチン)
左右交互の腕に接種していきます。

③副反応

よくみられる副反応としては、注射接種部位の発赤、腫れ、しこり痛みや発熱などです。重い副反応としては、非常にまれですが、ショック、アナフィラキシー様症状、けいれんが報告されています。

④接種時期：2か月～5歳未満

望ましい接種スケジュールは生後2～7か月未満の間に接種を開始して27日以上の間隔で3回、追加免疫として1歳～1歳3か月の時期に(3回目の接種から60日以上あけて)1回の計4回になります。肺炎球菌のスケジュールは接種時期によって異なりますのでご確認ください。

接種開始月齢	回数	接種方法
2～7か月未満	4回	27日以上の間隔で3回接種、 1歳～1歳3か月の時期に追加接種1回
7～12か月未満	3回	27日以上の間隔で2回接種 1歳すぎてから1回接種
1歳以上2歳未満	2回	60日以上の間隔で2回
2歳以上5歳未満	1回	1回接種で終了

小児用肺炎球菌ワクチン

標準

生後
2～7か月未満
で接種開始

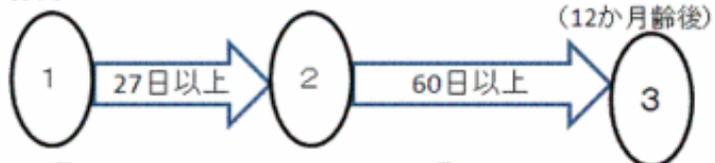


12～15か月齢

12か月齢までに3回接種

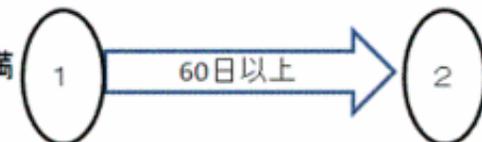
標準でできなかった場合

生後
7～12か月未満
で接種開始



(12か月齢後)

12～24か月未満
で接種開始



2歳～5歳未満



水痘（みずぼうそう）について

2～10歳の子どものよくかかる感染症です。発熱とともに顔や頭、口の中をはじめ全身に大きさが不ぞろいな湿疹ができます。潜伏期間は2～3週間で、水疱がなくなるまで飛沫感染（くしゃみやせきなどからの感染）や接触感染（触ることで感染）します。

①接種の受け方

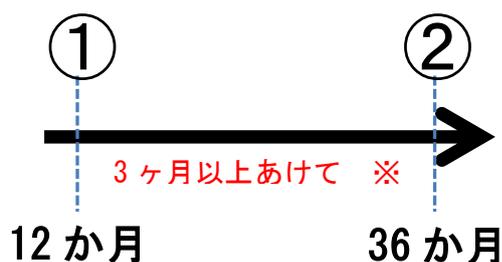
接種日が近づいたら案内が届きますので、指定の会場まで来てください。

②接種方法：皮下注射での予防接種です。（生ワクチン）

③副反応

よく見られる副反応としては、接種部位の発赤・腫脹・硬結等、発熱、発疹などです。重い副反応としては、非常にまれですが、アナフィラキシー様症状、ショックなどがあります。

④接種時期：生後12か月～36か月



※水痘にかかったことがある方は接種する必要はありません

※

標準的には2回目の接種は、1回目接種から6～12か月经過した時期に行う事となっておりますが、せたな町では接種機会が限られているため1回目接種から3か月经過した方を対象として呼びしています。

日本脳炎について

日本脳炎ウイルスの感染で起こります。ブタなどの体内で増えたウイルスが蚊によって媒介されて感染します。7～10日の潜伏期間の後、高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなどを示す急性脳炎になります。ヒトからヒトへの感染はありません。流行は西日本が中心ですが、ウイルスは北海道などの一部を除く日本全体に分布しています。以前は小児、学童に発症しておりましたが、最近は予防接種を受けていない高齢者を中心に発症をしています。感染者のうち100～1,000人に1人が脳炎を発症します。脳炎のほか、髄膜炎や夏かぜ様の症状で終わる人もいます。脳炎にかかった際の死亡率は20～40%ですが神経の後遺症を残す人が多くいます。

① 接種の受け方

接種日が近づいたら案内が届きますので、指定の会場まで来てください。

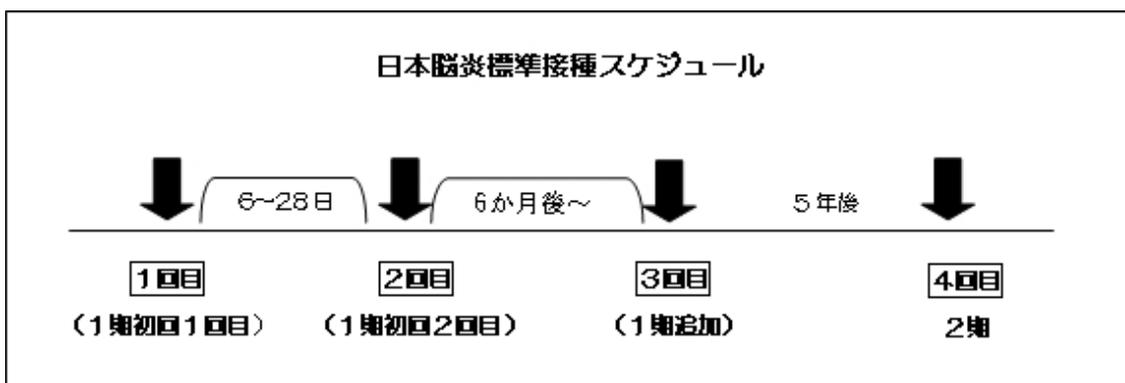
② 接種方法：皮下注射での予防接種です。（不活化ワクチン）

③ 副反応

よく見られる副反応としては、接種部位の発赤・腫脹・硬結等、発熱、発疹などです。重い副反応としては、非常にまれですが、アナフィラキシー様症状、痙攣、脳症、急性血小板減少性紫斑病などもあります。

④ 接種時期：6か月～90か月

（標準的接種は3歳から開始になります。せたな町では3歳から案内を発送しております。）



B型肝炎について

B型肝炎はB型肝炎（HBV）ウイルスによっておこる肝炎です。2～10歳の子どもがよくかかる感染症です。乳児期にHBVに感染すると慢性肝炎になることが多く、長期にわたり治療を必要とし、最悪、肝硬変や肝がんを発症します。B型肝炎は垂直感染（出産時母子の産道を通じて感染）や、水平感染（性的接触、血液を介して感染）をします。

①接種の受け方

接種日が近づいたら案内が届きますので、指定の会場まで来てください。

②接種方法：皮下注射での予防接種です。（不活化ワクチン）

③副反応

よく見られる副反応としては、接種部位の発赤・腫脹・硬結等、発熱、発疹などです。重い副反応としては、非常にまれですが、アナフィラキシー様症状、ショック、多発性硬化症、ギラン・バレー症候群などがあります。

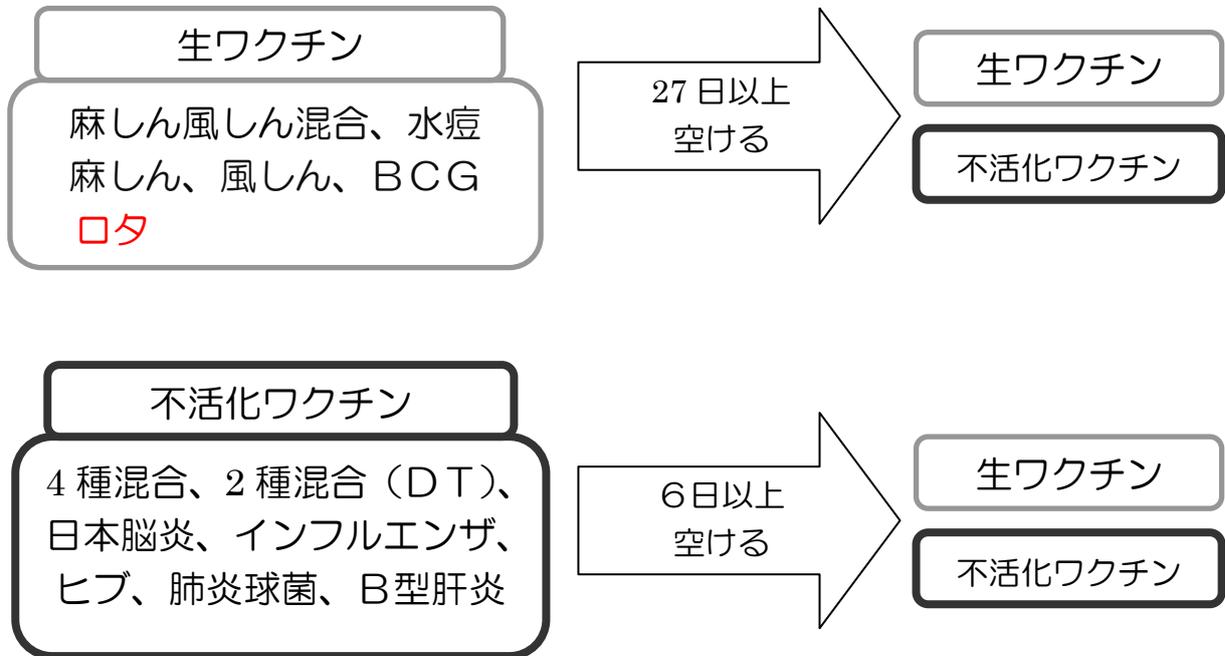
④接種時期：2か月～11か月

3回接種することで免疫をつけることができます。



6. 予防接種の接種間隔

予防接種には「生ワクチン」と「不活化ワクチン」があります。それぞれ、接種した後に違う予防接種をする場合は一定の間隔をあける必要があります。



- ※ 例えば、4月1日（火）にBCG（生ワクチン）を接種すると、次に他の予防接種をできるのが4月29日（火）になります。同じく、4月1日（火）に4種混合（不活化ワクチン）を接種すると、次に他の予防接種を出来るのが4月8日（火）になります。
- ※ 同じ予防接種では、接種間隔が異なることがあります。例えば、4種混合予防接種後、4種混合予防接種をするときは、20日～56日の間隔で接種します。

7. 予防接種の通知について

せたな町では、予防接種の対象となったお子さんに個別通知を行っています。通知は2～3週間前に発送いたしますので、内容をよく読んで指定の会場にお越してください。

また、接種が終了しているのに通知が来る場合は、お手数ですが保健師までご連絡ください。

8. その他の予防接種について

定期予防接種である「BCG」「4種混合」「麻しん風しん混合」等のほかにも、保護者の判断で医療機関などで接種できる**任意予防接種**があります。

接種を希望される方は、小児科医やかかりつけの医師に相談して下さい。

- ・ インフルエンザ
- ・ おたふくかぜ
- ・ A型肝炎
- ・ ロタウイルス

せたな町では0～15歳のお子さんに助成を行っています。
詳しくは10月ころの役場チラシ等をご覧ください。

大切な予防接種！ 忘れずに受けましょう



聞きたいこと、質問などがあれば
こちらへどうぞ・・・

北檜山区：せたな町健康センター（84-5984）

瀬棚区：瀬棚総合支所（87-3311）

大成区：大成総合支所（4-5511）

担当：保健師

せたな町予防接種のしおり

せたな町役場 保健福祉課

久遠郡せたな町北檜山区徳島63-1